

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

1 今年度の学校経営の基本方針

学校、家庭、地域が連携し、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりに向けて、子どもの声や思いを大切にした学校教育を推進する。

2 今年度の重点推進目標

- ① 学ぶ力を育成する(自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力の育成) ② 一貫性・連続性のある教育(「小中一貫した教育」を含む)を推進する
③ 豊かな心を育成する ④ 健やかな体を育成する ⑤ 信頼される学校づくりを推進する

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

(A...「十分である」 B...「おおむね十分である」 C...「やや不十分である」 D...「不十分である」)

評価項目	自己評価			学校関係者評価	
	達成状況	自己評価	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像 学び続ける子ども	A	<ul style="list-style-type: none"> 「学習の3本柱」の意識化により、多くの生徒が落ち着いて授業に臨み、粘り強く課題に取り組む姿勢が見られた。 ICT機器を活用した視覚的な授業展開やパフォーマンス課題の導入・活用により、主体的に知識を活用し、定着を図る場面が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員主導の課題設定から脱却し、生徒自らが問いを見出す探究的な学び(AARサイクル)への転換を加速させる。 学びのサポーター等の外部人材と連携を深め、学習に困難さを抱える生徒への個別最適な支援を一層充実させる。 	A	A
想像できる子ども		<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育(職場体験)や特別支援学級との交流を通じ、相手の立場や将来の生活を想像し、自己の役割を考える機会を設けた。 いじめ防止標語や道徳教育を通じ、自他の命や個性の多様性を尊重しようとする意識が醸成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の心情を想像することに課題を抱える生徒に対し、日常的な場面での代弁やSST(ソーシャルスキルトレーニング)の視点を取り入れた指導も検討し、表現方法指導や心情に寄り添った指導を心掛ける。 自己肯定感を高めるための「良いところ探し」や称賛の場面を増やし、生徒が自分の可能性や将来を明るく想像できる土壌を育てる。 	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標の中に、「身体を鍛えよう」と書いてあるのはとても良いが、部活動の選択肢が少ない印象です。 重点目標に向けて、非常によい取組が行われているように感じます。 教職員の少なさをカバーする外部人材は、とても大切になります。関係機関や外部人材の力も積極的に活用していくことが必要ですね。 小学校が隣に位置して、1校であることをかなり活用した取組が見られますね。今後一層の工夫に期待します。 引き続きキャリア教育の成果などを学校だよりやホームページなどを通じて、保護者や地域へ具体的に発信し、学校の取組への理解と協力を促進してほしい。 				

①「学ぶ力の育成」に関わること	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の3本柱」を意識させ、落ち着いた学習環境を維持できている。 ・AARサイクルを意識した授業づくりを目指し、生徒の自ら学ぶ意欲を高めるために授業実践や研修に取り組んできた。学習の課題や学習内容を明確にすることで、自ら学びに向かう姿勢を育成してきた。総合的な学習における課題探究学習でも子どもたちの主体性を引き出した。 ・ICTの活用も少しずつ進んできた。これにより視覚的に訴える授業を展開し、基礎基本の定着を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況は個々に差があるので、生徒への個別支援を充実させるため、学びのサポーター等の外部人材をさらに活用する。 ・生徒が課題を自分事として捉え、主体的に活動するためには、生徒個々の力の差もあるので、指導やサポートも個々に対応できるようにしていくことを検討する。今後もサイクルの定着に向け、授業デザインの研鑽を継続する。 ・ICTの活用は、効果的に行えるように、今後も教科ごとに活用を検討を行う。 	A	A
②一貫性・連続性のある教育に関わること	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「小中一貫した教育グランドデザイン」を元に、小中合同研修会(計4回)にて協議し、教師間の授業参観と交流を充実させた。 ・児童生徒の交流活動(スポフェス・即売会等)を通じ、中学生が小学生を世話し、小学生が中学校への見通しを持つピアサポートが機能した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との情報共有を一層深化させ、「中1ギャップ」の解消に向けた切れ目のない支援体制を構築する。 	A	A
③「豊かな心の育成」に関わること	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活の3本柱」の実践により、良好な人間関係と規律ある生活習慣が定着している。 ・日常の道徳授業実践に加え、特別講師による講演会(オリンピック・パラリンピック講演会、キャリア教育講演会、性教育講演会等)を行い、自己の生き方を考えさせるだけでなく、互いの良さを認め合う心の醸成を目指して取り組んだ。 ・いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応や、予防的な道徳教育・標語づくりが効果を上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活の3本柱」の指導は、生徒もよく意識しており、今後も継続していく。 ・自己肯定感の低い生徒や、対人関係に不安を抱える生徒へのアプローチを強化し、多様性を認め合う集団づくりを推進する。 ・自己肯定感や自己有用感を高め、全ての生徒が安心して過ごせる環境作りを目指す。専門家によるSST(ソーシャルスキルトレーニング)などの活用も検討する。道徳を中心とした心を育てる教育を続けることも大切だと考える。 	A	A
④「健やかな体の育成」に関わること	A	<ul style="list-style-type: none"> ・エンスポや外部専門家(コンサドーレ等)による指導、スポフェス等の行事を通じ、運動の楽しさを味わう機会を確保した。 ・性教育講演会や食育指導により、健康保持への意識付けを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食欠食や偏食等の食生活の課題がある生徒に対し、家庭と連携した取組の必要性を感じるため、今後何ができるか検討していきたい。 ・運動機会の提供を行うことができたが、日常的な運動習慣を醸成する取組も検討する必要がある。 	A	A
⑤「信頼される学校づくり」に関わること	A	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐーるやHP、学年だより等の多角的な情報発信により、学校の考えや生徒の様子を迅速に伝達した。 ・教職員間の情報共有が密であり、イレギュラーな事態にも組織的に対応できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の短縮や業務効率化をさらに進め、教師が心身の余裕を持って生徒に向き合える環境を整える。 ・保護者アンケートでは、教育活動全般、学習・評価に関する多くの回答で肯定的な割合が高く推移している。今後も、家庭との連携をより密にし協力を仰ぎながら情報発信に努め、生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。 	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ力を育成する」という高い目標は素晴らしいが、具体的に「○○高校に何人」等分かりやすく見えるかするのはどうなのか？ ・子どもたちも非常に落ち着いており、日頃の先生たちの努力が感じ取れます。 ・小中のつながりは、一層強くなってきていて素晴らしいと思います。無理なく長く続けられるつながりが大切だと思うので、小中で話し今後も続けてほしいです。自ら考え、強く生きていける子どもに成長するためには、本人の力を伸ばすとともに家庭の力が必要です。そこを保護者にどう意識してもらうか、学校だけでは難しいと思うので、地域・関係機関の力を活用していくといいと思います。 ・省力化の意識が必要ですね。・中1ギャップの軽減について、今後橋梁できることもあると思います。 ・評価や方策に、具体的内容が記入されているのは、分かりやすく客観的でよいと思います。さらに可能な範囲で数値も含めることができるとよいのではないのでしょうか。・地域と一体となった「信頼される学校づくり」が進んでいる。地域の教育力を活用した体験活動等の更なる充実に期待したい。 				